

事業実施報告

開催日	令和8年5月16日（土）～5月17日（日）		
事業名	テンパーク・ボランティア養成事業		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	38名（大学生35名、高校生3名）
対象	青少年教育ボランティア活動に興味関心をもつ高校生、大学生、社会人等		
関係機関名	絵本専門士 佐藤 千春 氏		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

【事業の内容】

ボランティア活動に興味・関心をもつ高校生・大学生を対象に、講義・演習・説明を通じてボランティア活動の基本を習得することを目的とし、国立青少年教育振興機構のボランティア養成カリキュラムに沿って実施した。「ボランティア活動の意義」では、絵本専門士の佐藤千春氏を招聘し、保育現場での経験をもとに、ボランティア活動の本質についての講義およびケースワークを実施した。「安全管理」では、当施設の活動プログラムであるテンパーク・スタンプラリーを通じて、施設のフィールドの把握と自然体験活動における安全上の留意点を学んだ。「ボランティア活動の技術」では、野外炊事の演習を通じて、必要な技術・知識の習得と安全管理のポイントを意識させる内容で実施した。「青少年教育施設におけるボランティア活動」では、法人ボランティア制度の説明に加え、先輩ボランティアによるアイスブレイクや職員によるアドベンチャープログラムを通じて参加者同士の関係づくりを図った。「青少年教育」および「青少年教育施設の現状と運営」では、体験活動の重要性等について講義を行うとともに、社会教育施設としての役割や全国施設との連携についても説明をした。

【成果】

本事業の成果として、昨年度の課題であった「安全管理」の講義内容の見直しについては、テンパーク・スタンプラリーの実施により改善が図られた。参加者が子どもの目線に立って屋外のフィールドを体験することで、危険な植物やつまずきやすい場所など、安全上の留意点を実感を伴って理解することにつながった。この体験は、今後のボランティア活動において子どもたちを支援する際に直接活かせる学びとなることが期待される。

参加者アンケートからは、「ボランティアは人との繋がりを大切にできるという意味でよいことだと思った」「自分が今まで嬉しかったことは、こうやって学んで意識してやってくれていたのだと知れた」「心理面で心が豊かになったり、視野が広がったりすると感じたことがあったので、ボランティアは凄いなと思った」など、多くの気づきと学びの声が寄せられた。参加者にとって、誰かの役に立つことで得られる内面的な充実感や人との絆の深まりを実感する、貴重な機会となった。

さらに、今回の参加者の中から6月のブラッシュアップ研修への参加を希望するメンバーが数名現れており、継続的な学びへの意欲を引き出す成果があったと考える。また、スタッフとして関わった先輩ボランティアのアンケートからも、アイスブレイクの進め方や参加者との関わり方について新たな学びがあったことが読み取れた。

【課題】

ケースワークの時間配分について。参加者・先輩ボランティア双方から「もう少し話し合いたかった」という意見が寄せられたことから、次年度は講義内容と時間配分の構成を見直したい。

食事面について。レストランでの食事が2日目の昼食のみにとどまった。施設のレストラン使用方法の習得および参加者の満足度向上の観点から、次年度はレストラン食の回数を増やすことを検討したい。

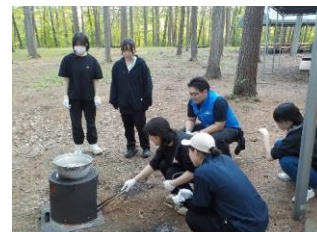
状況写真



テンパーク・スタンプラリー



グループワーク



野外炊事の演習



青少年教育についての講義



アドベンチャー・プログラム



集合写真